

産油国トレーニング協力事業報告 (カザフスタン)

カザフスタンは、約 1600 万人の人口が日本の 7 倍の国土に暮らしています。エネルギー資源と鉱物資源に恵まれた資源大国で、石油及び天然ガス埋蔵量は世界有数であり、レアメタルを始めとする豊富な鉱物資源を有しています。今後重要な資源供給国になることが期待され、日本も各種の資源開発に参加しています。

近年のカザフスタンと JCCP の関係としては、平成 21 年 10 月、カザフスタン共和国の首都アスタナで「第 1 回日本カザフスタン経済官民協議会」が開催された際、この会議に出席し、佐瀬専務理事がトップマネジメントと政策対話を行いました。また、平成 23 年 7 月には、JCCP の研修プログラムの刷新活動の一環で、同国を訪問しました。

カザフスタンからは、平成 5 年より約 200 名の研修生を受け入れており、レギュラーコースへの参加という点では、定着している状況にあります。今回は、より効率的な研修が可能なカスタマイズプログラムについて、理解を深めていただくために同国を訪問しました。

1. カズムナイガス (KazMunayGas)

カズムナイガスは、カザフスタン共和国政府 100% 出資の国営石油・ガス企業であり、同国のエネルギー政策のもとで石油・ガス事業を上流から下流まで一元的に実施しています。近年は石油・ガス分野の発展をもとに目覚ましい経済成長を遂げて

おり、石油・ガス開発の中心である同社は今後も各種事業展開を実施する方針であり日本企業にとっても関心が高まっています。



カズムナイガス本社

8月19日、カズムナイガス本社にて、アンダー シャプトフ氏 (Mr. Andar M. Shukputov, Chief of Staff)、アルマ ツルバイエフ氏 (Ms. Alma Tulebayeva, Director HRD '05年 HRM コースに参加) 及びダナ アルベコワ氏 (Ms. Dana Albekova, '09年 HRM コースに参加、4月より研修窓口) に面談しました。

同国は、独立以来、人材育成に力を入れています。JCCP の研修コースにも期待しており、レギュラーコースについては、今後も引き続き研修生を送りたいとの強い意志を伺いました。同国でのカスタマイズコースについては、一か所での開催ではなく、複数個所での開催を考えたいとの積極的な意見を頂きました。

アルマ ツルバイエフ氏からカスタマイズコースの開催までの期間について質問があり、意思表示から開催まで、約6ヶ月であると説明しました。



シャプトフ氏 (右から2人目)
ツルバイエフ氏 (右端)

2. カズエナジー (KAZENERGY)

カズエナジーは、石油省とも強い関係があり、エネルギーセクター及びオイル & ガスを対象としている団体です。KE へは初めての訪問でもあり、JCCP の紹介を主目的に伺いました。

8月20日、同社アセット マガノフ氏 (Asset Maganov, General Director)、トガン コザリエバ氏 (Ms. Togzhan Kozhaliyeva, Executive Director) 及びアセル ベキモバ氏 (Assel Bekimova, Manager HRD、昨年 KMG 在籍時代に TCJ に参加) と面談しました。

KE は、プロフェッショナルが保有すべき知識、技術のスタンダードを確立すべく活動しており、知識、技術の標準化の観点で JCCP に関心があるとのコメントを頂きました。標準化の観点から JCCP のサーティフィケートの内容について質問がありましたが、JCCP 独自のものとお答えしました。尚、KE には色々な国のオイル及びガス関連企業が会員となって働いていることから、JCCP プログラムへの参加は、カザフスタン人が条件である点を申し添えました。



マガノフ氏 (中央)、コザリエバ氏 (右から2人目)
ベキモバ氏 (左から2人目)

今回は、カスタマイズ研修への理解を深めて頂くために、カザフスタンを訪問しました。結果、カズムナイガスからカスタマイズ研修への積極的なコメントを頂きましたので、センター内で周知し、できるだけ早期の実現につなげたいと思います。

また、急な来訪にもかかわらず、私が担当した研修コースの参加者であるルスタム氏 (Mr. Rustam Karabalayev) 及びコンヌスパイエフ氏 (Mr. Konuspayev Baurzhan) に会うことができ、旧交を温められたのは望外の喜びでした。

(研修部 鈴木 和廣)